

特定非営利活動法人 JIPPO

2013(平成 25)年度 活動報告

2013年4月1日から2014年3月31日まで

2013年度を振り返って

法人設立5周年を迎えた2013年度は、海外支援事業として、パキスタン北部の農村に飲料水を供給するための井戸を設置する事業をメインに行いました。女性の生活改善や教育の促進につながる事業であることから広く助成金や寄付を募り、実施することができました。殊に浄土真宗本願寺派仏教婦人会総連盟から初めてJIPPOの事業に対して助成を受けることができたのは、宗門内の海外協力に対する理解を得るうえで大きな効果がありました。事業は現地NGOとの連携で実施し14基の井戸を建設しました。また1カ月間日本人の専門家を派遣し、村の人々に対して衛生教育を行うことで、地域と密接にかかわることができました。一方で建設状況や井戸の品質、経理の面で十分に管理が行き届かない面もあり、課題も残りました。海外での活動においては日本人スタッフが現地に駐在することが肝要であり、人材、経費の確保に努めながら、日本人を派遣できる環境を整えたいと考えています。

設立以来支援しているスリランカの紅茶農民の生活向上については、小規模自営農民の組織作りに向けて初めての調査を実施することができました。貧困にあるプランテーション労働者が自営農民へと移行していくことができるよう、小規模自営農業の基盤づくりの支援事業へとつなげていきます。

東日本大震災復興支援事業においては、恒常的に現地と関わる事業を行うことが課題でしたが、今年度から南相馬市において、菜の花の栽培を通じた農地の除染と農業の再生を旨とする事業を本格的に開始しました。支援農家では2013年10月に初めての種まきを行なったほか、同様のプロジェクトを行っている他団体と「南相馬農地再生協議会」を設立し、単団体では困難な農機具の購入や搾油、製品化と販売等を連携して行っていく仕組みをつくることができました。今後も、被災地の現場主義を尊重しながら、外部支援団体としてサポートしていきます。


設立5周年記念事業として、宗門内のNGOによるシンポジウムを開催しました。各団体の経験豊かな活動発表は、社会貢献、国際協力を実践する個人、団体が抱える問題の解決のヒントとなり、大変有意義でした。JIPPOに対しては、宗門内の団体のハブ的な役割を求める声上がり、宗門内外をつなぐ役割が期待されています。

各事業の実施内容

(1)海外支援事業

①

事業名	パキスタン クアルド村の飲料水供給のためのハンドポンプ設置事業
実施地	パキスタン ギルギット・バルチスタン州 スカルドゥ・クアルド地区
期間	2013年4月1日(月)から11月25日(月)
内容	2010年のパキスタン洪水災害の際、防水壁を支援したことをきっかけに、現地NGOのGRACEの要請で貧困地域の生活改善事業として実施。近くに水場が無く、水汲みの重労働により少女が学校に行けなかったり女性が腰痛

	<p>等の慢性疾患を起こしたりしている状況を改善するため、村内50世帯500人の範囲に14基のハンドポンプ付井戸を設置した。また、衛生教育の日本人専門家を8月16日から9月13日まで1カ月現地に派遣し、住民に手洗いや歯磨き、トイレ、ゴミの管理等、衛生についてのワークショップを実施した。</p>	 <p style="text-align: center;">井戸が出来て喜ぶ子どもたち</p>
<p>受益者</p>	<p>クアルド地区の50世帯の住民、500人</p>	
<p>成果</p>	<p>14基の井戸が設置されたことにより、衛生的な水が身近で手に入るようになり、少女たちの水汲みの時間や疲れが軽減された。日本人が衛生教育の啓発を行ったことにより、その重要性が広まった。住民から女性の保健衛生リーダーも選出され、継続的な衛生指導が見込まれる。井戸は企画当初から住民組織が設置場所の選定や建設作業に関わり、完成後も管理委員会がメンテナンス等を行うことで、共有財産として位置づけられた。事業評価とフォローアップを次年度に実施する。</p>	
<p>事業費</p>	<p>2,842,237円</p>	
<p>助成 指定寄付</p>	<p>公益財団法人 日本国際協力財団 浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金 浄土真宗本願寺派 仏教婦人会総連盟 浄土真宗本願寺派 岐阜教区仏教壮年会連盟 京都府 押山裕子様、岐阜県 新井明美様、富山県 福井訓子様、 富山県 明覺寺様 その他バザー収益</p>	

②


<p>事業名</p>	<p>スリランカ小規模自営農民育成事業（調査）</p>
<p>実施地</p>	<p>スリランカ ウバ州 ハプタレー近郊</p>
<p>期間</p>	<p>2013年12月19日（木）から12月28日（土）</p>
<p>内容</p>	<p>低所得者の多いプランテーション労働者が主体的な農業を営めるよう、小規模自営農民への移行を旨とするため、小規模自営農民の育成に必要な事柄を洗い出すため、生活実態調査を行った。</p>
<p>成果</p>	<p>茶を生産する小規模自営農民は、スリランカが世界に誇るウバ紅茶の生産を支えるには、栽培技術、知識、意欲とも脆弱な状態であることが分かった。生産者組合等で組織化し、技術や品質管理の向上を図り、マーケットを確立するための支援が必要と思われる。プランテーションと協力しながら段階的に紅茶生産者全体の質を向上するプログラムへつなげていきたい。</p>
<p>助成</p>	<p>JICA「次の一歩」プログラム</p>

③

事業名	平成 25 年台風第 30 号「ハイヤン」によるフィリピン被害調査
実施地	フィリピン 東ヴィサヤ地方 サマール州およびレイテ州
期 間	2014 年 3 月 7 日 (金) から 3 月 13 日 (木)
内 容	2013 年 11 月に起こった台風 30 号「ハイヤン (フィリピン名ヨランダ)」の復興支援案件調査を実施。サマール島のカルバヨグからマラブット、レイテ島のタクロバンなどを視察し、自治体や住民、NGO 団体から被災当時の様子や復興状況をインタビューした。
成 果	被災地の復興支援としてレイテ、サマール島において学校の再建のニーズを確認した。この調査をもとに、浄土真宗本願寺派たすけあい運動募金へ事業を提案した。

(2) スタディツアーの企画・実施

①

事業名	東ティモール&バリ 「コーヒーと民芸品…異なる二つのフェアトレード、そして住民の暮らし」
実施地	東ティモール・マウベシ、インドネシア・バリ
期 間	2013 年 8 月 5 日 (月) から 8 月 13 日 (火)
内 容	JIPPO が扱うフェアトレード商品 (カフェ・ティモール) 生産地のマウベシ地方と、隣国インドネシア・バリを訪問し、それぞれのフェアトレードの実情や、島民の暮らし、自然、文化に触れた。東ティモール国内のプログラムは、カフェ・ティモールの生産者組合を支援するパルシック (東京) 及び、環境保護などの活動を行っている現地 NGO ハブラス財団と連携して実施した。
	
	カフェ・ティモールの生産者と
参加者	4 名

②

事業名	スリランカ「茶園と戦災孤児院を訪ねる旅」
実施地	スリランカ・ヴァヴニア、シーギリア、ハプタレー、コロンボ
期 間	2013 年 8 月 22 日 (木) から 8 月 29 日 (木)
内 容	JIPPO が扱うフェアトレード商品 (ウバ紅茶) 生産地のグリーンフィールド農園や仏教遺跡の視察のほか、ハプタレー幼稚園やヴァヴニアの戦災孤児院の子どもたちと交流を行った。大学連携として、京都女子大学の単位認定プログラムや、龍谷大学経済学部のフィールドワーク実習Ⅱに採用され、5 名の大学生がこの制度により参加した。
参加者	13 名

③

事業名	大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム「スリランカフィールドスタディ」
実施地	スリランカ・ハプタレー、キャディ、コロンボ
期間	2014年2月17日(月)から3月1日(土)
内容	大阪大学の委託事業として実施。上記の学生7名が、当法人のフェアトレード事業地でのフィールドワークやコロンボ近郊でのホームステイ、ペラデニア大学での学生交流などを行った。
参加者	9名(教員2名を含む)

(3) フェアトレード事業

JIPPO 事務所で JAS 小分け業者認証を取得した(12月9日)。これにより JAS 認証で生産されている「カフェ・ティモール」ドリップパックについては、JIPPO 事務所での箱詰めが可能になった。(経費削減と在庫管理の省スペース化につながった)

【販売実績 2014年3月31日】

商品名	売上個数				
	4月 ～6月	7月 ～9月	10月 ～12月	1月 ～3月	合計
ウバ紅茶リーフ(袋)	106				106
ウバ紅茶リーフ(箱)	55	70	66	64	255
ウバ紅茶ティーバッグ	388	133	272	125	918
カフェ・ティモール(ドリップ)	158	173	338	176	845
カフェ・ティモール(粉)	17	36	64	65	182
カフェ・ティモール(豆)	22	17	6	13	58
カフェ・ティモール ドリップ(バラ)	656	908	508	808	2,880
カフェ・ティモール ミニパック(3P)	41	650	200	15	906
カフェ・ティモール ミニパック(4P)	125	45	30	9	209
カフェ・ティモール ミニパック(5P)			15		15
業務用(レギュラーコーヒー 500g)	45	32	75	58	210

【売上額 期末決算】

年間売上額：¥2,569,975.-

(前年度売上：¥2,736,485.- 前年度比：93.9%)

事業開始からの売上総額 ¥16,598,860.-


販売個数、売り上げとも前年度から減っており、2年間連続のマイナスとなった。寺院のイベント等での大口の御扱いが減っていることが要因である。味、品質は購入者の評判もよいことから広報や販売網の拡大を図るとともに、業務用の販売先を開拓していきたい

(4) 東日本大震災復興支援

①

事業名	「菜の花プロジェクト」
実施地	南相馬市
期間	2013年4月1日(月)から継続
内容	<p>年度初めに南相馬市小高地区、飯舘村を視察し「ふるさと小高区地域農業復興組合」にて菜の花プロジェクトを説明。同組合長、佐藤良一氏の圃場1haで試験的に栽培することが決まり、10月6日に初の「種まきイベント」を開催した。「子どもたちの野外活動」に参加した親子ら約50人が集まり、圃場の一部を手撒きした。アトラクションとして京都市出身の歌手、ふくい舞さんのミニライブも行った。</p> <p>2014年1月、南相馬市内で同様の活動を行っている団体で「南相馬農地再生協議会」を立ち上げた。市外からは「チェルノブイリ救援・中部」「菜の花プロジェクトネットワーク」とともに、JIPPOも設立メンバーとして連携していく。</p>
事業費	976,328円
指定寄付	響流十方会、横浜市 福井舞様

②

事業名	南相馬市における小中学生の教育および野外活動を支援する事業 「南相馬の子どもたちの野外活動」
実施地	京都市内
期間	2013年7月28日(日)から8月1日(木)
内容	<p>東京電力福島第一原子力発電所事故により放射能被爆の恐れから屋外での活動が制限されている子どもたちに、夏休みを利用して思いっきり野外活動を楽しんでもらおうと2011年から毎年行っているイベントである。NPO法人南相馬子どものつばさと連携し、市内の小中学生とその家族を京都に招き、山科別院や聞法会館、府立ゼミナールハウスに宿泊し、乗馬体験や川遊びやなどを楽しんだほか、清水寺、西本願寺を拝観した。</p>
	 <p>山科別院の盆踊りにて</p>
参加者	南相馬市内の小中学生と保護者32名
成果	震災3年が経過し、放射能汚染に対する心配は依然としてあるものの、被災地の子どもたちの生活や野外活動も徐々に通常に戻りつつあるため、こうした招聘事業は一定の役割を果たしたと考えられる。今後は連携団体と話し合いながら、新たな教育支援活動を計画していきたい。
事業費	1,743,113円
助成 指定寄付	公益財団法人 京都新聞社会福祉事業団 公益財団法人全日本仏教会 真宗教団連合

③福島 の物産販売

年間売上額：¥1,010,011.－

(前年度売上：¥2,598,860.－ 前年度比：38.9%)

寺院のイベント等で販売を行った。

(5)国内における貧困者への支援

- ・京都市内 3 河川の巡回に加え、5 月より居宅へ移った元野宿者の訪問を開始。龍谷大学ボランティア・NPO活動センターとの共同事業として、京都市内の仕事を失った人や野宿の人に対し支援を行う
- ・2014 年 1 月 11 日(土)、野宿者支援の一環として毎年行っている「餅つき大会」(第 19 回)を東本願寺、きょうと夜回りの会らと開催。約 180 人が集まった。

(6)広報・啓発活動


- ・6 月 1 日(土)、「躍動する仏教系NGO—その活動と展望」協力
会場：龍谷大学大宮学舎 清和館 3 階ホール
主催：龍谷大学アジア仏教文化研究センター
- ・6 月 21 日(金)、立命館大学産業社会学部における「NGOボランティア組織論」の
一コマに講師として講義(高木美智代事務局職員)
- ・7 月 23 日(火)、福田直樹コンサート「被爆ピアノ演奏会」後援
内容：広島 の被爆ピアノによる演奏会。
原爆と原発を考える啓発活動として
実施し、約 70 名が来場した。
会場：聞法会館 3 階多目的ホール
主催：響流十方会
- ・8 月 24 日(土)、下京・京都駅前サマー
フェスタ 2013 出店
会場：西本願寺・東本願寺・京都駅ビル
駅前広場
主催：下京・京都駅前サマーフェスタ実
行委員会
- ・9 月 1 日(日)付、会報 10 号発行
- ・9 月 14 日(土)、国際協カステーション
2013 出展
内容：京都で活動している国際協力団体が一堂に会し活動を紹介するイベントで活
動紹介やフェアトレード商品を販売
会場：京都駅ビル 9 階 京都府国際センター
主催：公益財団法人京都府国際センター
- ・12 月 1 日(日)、備後教区比婆組、実践運動推進協議会研修会にて JIPPO について講
演(高木美智代事務局職員)
- ・12 月 15 日(日)付 会報 11 号発行
- ・2014 年 1 月 11 日(土)～13 日(月)、御正忌報恩講バザーを開催。売上金 152,580



被爆ピアノコンサート

円は、パキスタンの井戸設置事業の活動費として活用した

(7) JIPPO 設立 5 周年記念事業

事業名	記念イベント「国際貢献する本願寺の人びと～シンポジウムと交流会」	
場 所	聞法会館 多目的ホール	
期 日	2013 年 11 月 30 日 (土)	
内 容	<p>浄土真宗本願寺派の後援、龍谷大学アジア仏教文化研究センターの協力で開催。JIPPO のほか、「チボリ国際里親の会」(山口県 正信寺 南昌宏氏)、「日本ベラルーシ市民友好協会」(北海道 天寧寺 永江雅俊氏)、「瑞穂アジア塾」(島根県 西福寺 小笠原義宣氏)が活動を紹介し、質疑応答、懇親会を行った。</p>	
参加数	50 名	

シンポジウムの様子

(8) 会員管理

【会員数】 (3 月 31 日)

正会員 133 (個人 123、団体 10)

学生会員 10 (個人 10)

賛助会員 172 (個人 157、団体 15)

合計 315 (個人 290、団体 25)

以 上